

審査結果報告書

2022 年 2 月 3 日

主 査 氏 名

山下 拓



副 査 氏 名

田邊 聡



副 査 氏 名

天野 英樹



副 査 氏 名

村雲 芳樹



1. 申請者氏名 : DM18033 横田 光央

2. 論文テーマ :

甲状腺乳がんにおける血球炎症性マーカーと腫瘍微小環境の関連とその臨床的意義

3. 論文審査結果 :

本研究では、2006年から2018年に北里大学病院一般外科および乳腺甲状腺外科で遠隔転移のない甲状腺乳頭がんを診断され根治手術を施行した570症例の血液データおよび臨床病理学的因子を後方視的に解析された。また同コホート内における162症例の原発巣の検体についてCD33、D163、CD3の免疫染色を行い、陽性細胞密度と臨床病理学的因子との関連が解析された。その結果、低LMR(リンパ球一単球比)を示した症例は有意に10年以内の再発が多かった。また低LMR(HR=2.92)、pN1b、高ND、高Tgが独立した再発予後因子であり、低LMR、高ND、高Tgの全てが陽性を示した症例では著明な予後不良を示した(RFS46.9%, HR=17.9)ことが報告された。CD163陽性細胞密度と末梢血単球数、LMRがともに有意な相関がみられ、高CD163細胞密度(HR=3.12)、低LMR(HR=3.95)、年齢、pN1b、高Tgが独立した予後因子であることも示された。以上が本研究結果として報告された。本研究には、単施設の後方視的研究である点、予後良好な疾患であることから観察期間がまだ十分とは言えない点、選択性バイアスの可能性、感度特異度がマーカーとして使用するには不十分な点などの問題点はあるが、甲状腺乳頭がんの新しい予後予測マーカー候補を見出した点、血球炎症性マーカーと甲状腺乳頭がん腫瘍組織内へ浸潤した免疫細胞との関連を明らかにした点は新しい知見であり、有意義の研究であると評価された。